

活力と安らぎ、住み続けたいまち おがわ



小川町は、比企の山々に囲まれた豊かな自然、先人から受け継がれた歴史文化、そして、世界に誇る「和紙」の伝統が息づく町です。私たちは、こうした素晴らしい郷土の財産を次世代へと引き継ぐため、歩みを止めることなく、まちづくりを進めてまいりました。

その間、町の活性化を図るため、長年の懸案であった「道の駅おがわまち」のリニューアルを行いました。新しくなった道の駅は、伝統工芸の発信や観光の新たな拠点として、町に活気をもたらしています。また、積極的な企業誘致や、移住サポートセンターをはじめとした移住施策等の充実により、転入者が転出者を上回る「社会増」となるなど、町に新しい風が吹き始めています。

一方で、私たちは今、人口減少・少子高齢化という大きな問題に直面しており、この状況がさらに進めば、地域コミュニティや行政サービス等の維持が困難になるという強い危機感を感じております。この難局を乗り越え、持続可能な小川町を未来へつなぐため、この度、令和8年度を始期とする「小川町第6次総合振興計画」を策定いたしました。

本計画では、新たな将来像として「活力と安らぎ、住み続けたいまち おがわ」を掲げました。「活力」あるまちづくりのため、企業誘致や観光振興によって自主財源を確保し、DX（デジタル・トランスフォーメーション）の推進による効率的な行財政運営に努めます。また、「安らぎ」ある生活のため、学校教育や子育て支援を一層充実させるとともに、あらゆる世代が健康で生きがいを持って暮らせる環境を整えます。さらに、ゼロカーボンシティとして環境負荷の軽減を図り、防災・減災対策を強化することで、安全・安心なまちを実現してまいります。

まちづくりは、行政だけで成し遂げられるものではありません。町民一人一人が主役となり、対話を通じて共に知恵を出し合う「共創」の精神こそが、計画に命を吹き込みます。まちの将来像を実現し、未来のこどもたちが暮らしやすいまちの実現に向け、町民の皆様と共に歩んでまいりたいと考えております。

本計画の策定にあたり、貴重なご意見をいただいた町民の皆様、議会、審議会の皆様に深く感謝申し上げますとともに、今後も皆様のより一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和8年3月

小川町長 島田康弘